

調布市民のみなさん

このニュースは、毎月11日に行なっている「原発ゼロ」調布行動をめぐる情報を交流するものです。

今日は、フクシマ原発事故（東日本大震災）から13年10カ月となった1月11日（土）の「第145回行動」の報告と、明けて2月11日（火）に予定する「第146回行動」のご案内をお届けします。
(編集者)

企業献金に踊る「原発推進」許さない！

底冷えする晴天のもとで60人 第145回「原発ゼロ」調布行動



今回の司会・進行は「学習サークル・アネモネ会」のみなさん。司会は知識明子さん、スピーチ調整は大本久美さん、記録は秋山秀子さんと大橋美知代さん。音響装置とハンドマイク準備はいつもの鈴木勝雄さん、写真記録はむらき数子さん。



◆ 司会：知識明子さん 13年前から一度も休まずに続けてきた「原発ゼロ集会」は今日で145回を迎えます。「原発ゼロ」を実現するまで フクシマを忘れずに 声を上げ続けましょう。

◆ ♪歌 「出会いの広場」・「ピース ウェーブ」



◆ 鈴木トミ子さん（染地） 沢田研二がコンサートで、原発事故後ずっと 平和や原発などをテーマに歌ってきた。被団協ノーベル平和賞の時にこの詩を思い出した。一人ひとり

が自分の意思を伝えていくことが大切だと思います。沢田研二の2つの詩を朗読したい。

「3月8日の雲」 3月8日の雲白く 3日後の天の仕業など／誰かの想像も超えてた罰か
／平穏まじめに暮らしてたのに 3月8日の雲は白く／（略、編集部）賢いひとはいい 閉ざ
す者に救いを／心ない言葉に 折れちゃいけない君を思うと／折れないよと 折れないで

「平和への誓い」 平和について これからについて 共に／語り合い 話し合いましょ
う たくさんの違う考えが／平和への大きな力となること 信じて／たくさんの 違う考えが
平和を叶える／（略、編集部）未来を信じて／語り合い 話し合いましょ 人間を信じて

◆ 河野 良彦さん（布田、調友会） 私は80年前14歳で被ばくした。いま政府は
御用学者を集めて「第7次エネルギー基本計画」を検討しており、新聞などにも素案が報じら
れている。第6次の策定時からのどのように変化したか。①原子力規制委員会により世界で最
も厳しい水準の規制基準に適合すると認められた場合には、その判断を尊重し原子力発電所の
再稼働を進める。②高速炉開発の着実な推進、小型モジュール炉技術の国際連携による実証、
高温ガス炉における水素製造に係る要素技術確立等を進めるとともに、核融合研究開発に取り
組む。③発電部門では、2030年までにガス火力への30%水素混焼や水素専焼、石炭火力
への20%アンモニア混焼の導入・普及を目標に、適切な評価 ができる環境整備を行う。どれ
も絵に描いた餅で、基本計画に書き込むような状況とは考えられない。

（以下、少し長くなりますが、河野さんのスピーチ原稿をいただいて詳細を掲載します 編集部）

政党は選挙で何を問うたか？ 朝日新聞 2024.10.22.社説「衆院選—エネルギー『原発回帰
でいいのか』」によれば、政府は原発の「最大限活用」を進め、新增設まで認めるのか。それ
とも原発に依存しない社会をめざすのか。岸田政権が国政選挙で正面から掲げずに進めた政策
転換の是非を、今回の衆院選でこそ問わなければならない。エネルギー政策をめぐる各党の公
約は、再生可能エネルギーの推進では一致するが、原発は将来像が異なる。自民は最大限活用
を掲げ「次世代革新炉の開発・建設」も打ち出した。同じ与党でも公明党は「原発に依存しな
い社会をめざす」方針を保つ。立憲民主は2050年までに再エネ100%をめざし、原発につい
ては「新增設は認めない」と明記した。共産も原発ゼロの実現を掲げる。一方、維新と国民民主
は、「次世代」の原発の活用や建設を進める方針だ。東京電力福島第一原発の事故を経験した
日本社会にとって、原発をめぐる政策判断は極めて重要だ。各党とも論拠や具体化の道筋を詳
しく説明する必要がある。とりわけ重い責任を負うのが自民だ。前回21年の衆院選では、自
民は原発依存度を「可能な限り低減させる」と公約した。翌22年の参院選では、その公約と
の関係を明示せずに「安全が確認された原子力の最大限活用」を掲げたが、新增設には言及し
ていなかった。ところが、参院選後、電力供給の逼迫を理由に、わずか4カ月の検討で古い原
発の60年を超える運転延長や、新型炉への建て替えを打ち出す。原子力基本法まで改正し、
原発活用を「国の責務」に位置づけた。これだけの政策転換である以上、今からでも選挙で説
明を尽くし、信を問うのが最低限の務めだ。その際、原発が抱える様々な難題に目を向けな
いようでは、責任ある態度とは言えない。確かに、電力の安定供給と脱炭素化を考えれば、原
発を直ちにゼロにすることは難しい。だが、政府が想定した再稼働ですら、安全対策や避難計画
の不備で進まなかったのが実態だ。自然災害と過酷事故が重なったり、軍事標的になったりす
るリスクもある。「核のごみ」の問題も未解決だ。「最大限活用」と唱えれば、こうした課題
が消えてなくなるわけではない。一方、再エネはコストが劇的に下がり、世界中で拡大中だ。
再エネを主軸に原発依存度を低減することが、より現実的な道筋になっている。13年前の原
発事故のとき、誰もが電力の将来を真剣に考えたはずだ。岐路にある今こそ、あの時を思い起こ
し、未来を見ずえる必要がある。



◆ 高山 栄子さん（多摩川） 汚染水について。この先30年間にわたり月2~3回放

出されることになっているが「海の魚も汚染されるのでは？」と心配している。絵本「トビウオのぼうやは病気です」のような状況になるのでは？と考えると胸が苦しくなるが、できることをやっていきたい。「戦争はいや」「原発はいらぬ」と共感を広げることが大切と思う。

◆ ♪歌 「約束の歌」・「人間の歌」

◆ 沼倉 潤さん（多摩市） 河野さんの話、すごく大事なこと。原発を減らそうというのが国民の合意だったはず。現在14基の原発が稼働している。今後14基動かそうとしている。30基近い原発を新たにつくろうとしている。1基つくるのに3000～6000億円が使われる。原発の「4つのウソ」をしっかりとつかもう。①原発は安全、②原発は環境に優しい、③脱炭素社会めざす、④電気料金が安い。ウソばかりだ。いま私たちにできることは、ウソだらけのおかしな報道に声を挙げること。「核兵器廃絶の署名を広げよう。戦争を起こしているのは核兵器を持つ国。核兵器をなくせば、世界が変わる。」



◆ 佐橋 正文さん（西つつじが丘） 原発事故から13年10か月経ったが、事故処理としては、去年0.7グラムのデブリを取り出しただけ。この間にドイツは原発をゼロにした。日本は事故処理もできていないのに原発を動かそうとしている。国民は高い電気料を払わされている。今年の電気予備率は10%、原発をゼロにしても電気は足りてる。原発処理にかかる経費は40兆円、国民一人当たり50万円の負担になる。原発はゼロにしよう！一緒に声を上げていこう。

◆ 鈴木ヒデヨさん（国領町） 「ガザに平和を」の会は、「パレスチナの子どもたちとつながる会」に名称変更してスタンディングだけでなく色々なことに取り組んでいる。ジェノサイド・ホロコーストがパレスチナで行われている。1年間でイスラエルはどれだけ人を殺してきたのか（*配布のチラシ参照）。日本人は、知らぬうちにパレスチナの人びとを虐殺することに加担しているという事実がある。イスラエルと関係ある大企業の品への不買運動の取り組みも重要だ。できることから運動していこう。

◆ 大松由紀子さん（柴崎） この行動が145回続いているのは脅威だ。「原発を考える映画の会」は2か月に一度「上映会」をしている。今月25日（土）1時半から仙川の南ビル1階で「10万年後の安全」を上映する。フィンランドで2009年に制作されたもので、使用済み核燃料の問題を描いた映画だ。映画を見て皆で話し合っていきたい。

◆ ♪歌～「青い空は」～



第146回「原発ゼロ」調布行動

日時：2025年2月11日(火・休)

10時半～11時半 於：調布駅前

今回は2月11日(火、休日です)。福島原発事故から13年11カ月目、「調布行動」としては第146回目の行動です。2月の企画・進行・司会も「学習サークル・アネモネ会」のみなさんが受け持ってくれます。

参加される方は、それぞれの思いをプラカードやミニカードに書いて集まりましょう。どんなことでもいいから「ひとこと」は言ってやろうというトークの準備もしてください。色んな人が、短くてもいいから「ひとこと」を！と願っています。

準備してきたのにトークができなかった場合、メモを編集部にいただければ、このメールでみなさんに伝えます。

*小雨の場合はプラカードを持ってスタンディングなど、可能な範囲の行動に切り替えます。大雨の場合は、参加者各自でご判断を！

なお、来年の「窓口さん」は、以下のように申し合わせていますが、われこそはというグループほど、ぜひとも名乗り出て、輪番に加わってください。「1回だけ受け持ってみよう」というグループも大歓迎です。

145～146回(25年1～2月)	アネモネ会	
147～148回(25年3～4月)	年金者組合	3月は事故から満14年
149～150回(25年5～6月)	新婦人	
151～152回(25年7～8月)	@ちょうふ	8月は被爆・敗戦80年